

## 12303 生活習慣病・難病対策の推進

(主担当:保健衛生室 健康増進課・地域保健課・衛生指導課)

### 主な取組内容

- 1 原子爆弾被爆者の健康管理や各種手当の支給等を実施します。
- 2 難病患者およびその家族の QOL(生活の質)の向上をはかります。
- 3 県民に臓器移植に対する理解と協力を求めるため、啓発事業を行います。
- 4 休日ドナー登録をはじめとする骨髄バンク普及啓発およびドナー登録の推進をはかり、新規ドナー登録者の確保に努めます。

### 1 原子爆弾被爆者対策事業

原子爆弾被爆者の援護に関する法律に基づき、被爆者健康手帳所持者の健康管理のため、年2回の定期健康診断及び希望者に対してがん検診を実施した。

また、同法に基づく各種手当を対象者に支給した。

(1) 被爆者健康手帳所持者 49人 平成27年3月31日現在

	伊賀市	名張市
所持者数	15	34

(2) 被爆者健康診断受診状況

ア 定期健康診断受診者数

第1回 21人 (うち要精検者数 10人)

第2回 15人 (うち要精検者数 6人)

イ がん検診受診者数

平成26年度

	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	多発性 骨髄腫	大腸がん
受診者数	4	4	2	1	4	4
要精検者数	0	0	0	0	0	3

(3) 各種手当受給状況

平成27年3月31日現在

	医療特別 手当	健康管理 手当	保健手当 (一般)	保健手当 (増額)	介護手当	家族介護 手当	葬祭料
支給対象者数	2	43	0	1	0	1	4

## 2 難病対策事業

### (1) 難病法に基づく特定医療費の支給事業

平成27年1月1日から「難病の患者に対する医療費等に関する法律」が施行され、110の指定難病について認定基準を満たした申請者に特定医療費(指定難病)受給者証を交付した。

特定医療費(指定難病)受給者数

平成26年度(平成27年3月末現在)

番号	疾病名	男	女	合計
1	球脊髄性筋萎縮症	1	0	1
2	筋萎縮性側索硬化症	7	5	12
3	脊髄性筋萎縮症	0	0	0
4	原発性側索硬化症	0	0	0
5	進行性核上性麻痺	4	6	10
6	パーキンソン病	121	74	195
7	大脳皮質基底核変性症	4	5	9
8	ハンチントン病	1	0	1
9	神経有棘赤血球症	0	0	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	0	0
11	重症筋無力症	9	18	27
12	先天性筋無力症候群	0	0	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	6	19	25
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	2	2	4
15	封入体筋炎	0	0	0
16	クローウ・深瀬症候群	0	0	0
17	多系統萎縮症	11	6	17
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	15	15	30
19	ライゾゾーム病	1	0	1
20	副腎白質ジストロフィー	0	0	0
21	ミトコンドリア病	0	1	1
22	もやもや病	4	19	23
23	プリオン病	0	3	3
24	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	0	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	0	0
27	特発性基底核石灰化症	0	0	0
28	全身性アミロイドーシス	5	5	10
29	ウルリッヒ病	0	0	0
30	遠位型ミオパチー	0	0	0

番号	疾病名	男	女	合計
31	ベスレムミオパチー	0	0	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	0	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	0	0
34	神経線維腫症	3	1	4
35	天疱瘡	5	4	9
36	表皮水疱症	0	0	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	1	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	1	1
39	中毒性表皮壊死症	0	0	0
40	高安動脈炎	1	9	10
41	巨細胞性動脈炎	0	0	0
42	結節性多発動脈炎	1	4	5
43	顕微鏡的多発血管炎	5	4	9
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	2	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	0	0
46	悪性関節リウマチ	0	4	4
47	バージャー病	10	1	11
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	0	0
49	全身性エリテマトーデス	13	62	75
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	13	22	35
51	全身性強皮症	7	58	65
52	混合性結合組織病	0	14	14
53	シェーグレン症候群	0	1	1
54	成人スチル病	0	1	1
55	再発性多発軟骨炎	2	0	2
56	ベーチェット病	13	9	22
57	特発性拡張型心筋症	44	11	55
58	肥大型心筋症	6	5	11
59	拘束型心筋症	0	0	0
60	再生不良性貧血	8	8	16
61	自己免疫性溶血性貧血	0	0	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0	0	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	12	26	38
64	血栓性血小板減少性紫斑病	0	0	0
65	原発性免疫不全症候群	0	0	0
66	IgA腎症	0	1	1

番号	疾病名	男	女	合計
67	多発性嚢胞腎	0	1	1
68	黄色靭帯骨化症	4	0	4
69	後縦靭帯骨化症	27	14	41
70	広範脊柱管狭窄症	8	5	13
71	特発性大腿骨頭壊死症	7	3	10
72	下垂体性ADH分泌異常症	2	1	3
73	下垂体性TSH分泌亢進症	0	0	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	3	3	6
75	クッシング病	0	2	2
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1	0	1
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3	3	6
78	下垂体前葉機能低下症	8	7	15
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	0	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	0	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0	0	0
82	先天性副腎低形成症	0	0	0
83	アジソン病	0	0	0
84	サルコイドーシス	10	16	26
85	特発性間質性肺炎	3	3	6
86	肺動脈性肺高血圧症	2	6	8
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0	0	0
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2	5	7
89	リンパ脈管筋腫症	0	1	1
90	網膜色素変性症	13	21	34
91	バッド・キアリ症候群	0	0	0
92	特発性門脈圧亢進症	0	0	0
93	原発性胆汁性肝硬変	6	29	35
94	原発性硬化性胆管炎	0	0	0
95	自己免疫性肝炎	1	0	1
96	クローン病	27	15	42
97	潰瘍性大腸炎	94	84	178
98	好酸球性消化管疾患	0	0	0
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0	0	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	0	0
101	腸管神経節細胞僅少症	0	0	0
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	0	0

番号	疾病名	男	女	合計
103	CFC症候群	0	0	0
104	コステロ症候群	0	0	0
105	チャージ症候群	0	0	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0	0	0
107	全身型若年性特発性関節炎	0	0	0
108	TNF受容体関連周期性症候群	0	0	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0	0	0
110	ブラウ症候群	0	0	0
総計		556	646	1202

## (2) 特定疾患治療研究事業

難病法の施行前に特定疾患治療研究事業で対象とされていた特定疾患のうち、難病法に基づく特定医療費の支給対象となる指定難病以外の疾患については、治療がきわめて困難であり、かつ、その医療費も高額であるため、申請により特定疾患医療受給者証を交付した。

### 特定疾患医療受給者数

平成26年度(平成27年3月末現在)

番号	疾病名	男	女	合計
1	スモン	0	2	2
2	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	0	0
3	重症急性膵炎	2	1	3
4	プリオン病(ヒト由来乾燥硬膜移植によるクロイツフェルト・ヤコブ病に限る)	0	0	0
5	重症多形滲出性紅斑(急性期)	0	0	0
総計		2	3	5

## (3) 肝炎治療特別促進事業

B型、C型ウィルス性肝炎インターフェロン治療・インターフェロンフリー治療・核酸アナログ製剤治療の医療費を助成することで、早期治療を促進し、将来の肝硬変、肝がんの予防及び肝炎ウィルスの感染防止をする。

公費負担医療受給状況:平成26年度中

B型肝炎 86件(新規12件、更新74件)

C型肝炎 113件(延長3件、2回目1件を含む)

### 3 難病在宅ケア事業

管内における患者の実態を明らかにし、個別ケアを中心とした支援活動を充実させながら、在宅ケアを支えていくための医療・保健・福祉を包括したネットワークづくりを目指して各種事業を実施した。

#### (1) 難病地域ケア会議(実務者)

在宅難病患者を取り巻く関係者がネットワークを構築することにより、包括的な支援が提供できるようケア会議への参加を行った。

\* ALS: 筋萎縮性側索硬化症

開催年月日 病名・場所	参加者	検討内容
H26.4.24 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 デイサービスセンター職員、福 祉用具業者、家族、保健所保 健師	療養生活上の問題点、今後の方向性について情 報の共有
H26.5.27 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 本人・家族、保健所保健師	病状進行に伴う支援、今後の療養生活、介護者の 負担軽減について
H26.7.15 ALS (自宅)	ケアマネジャー、医師、本人・家 族、保健所保健師	家族の介護負担軽減、レスパイト入院について
H26.8.5 ALS (自宅)	ケアマネジャー、本人・家族、保 健所保健師	病状進行に伴う支援、ケアマネジャーの導入、介 護保険申請・介護用品について
H26.8.29 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 本人・家族、保健所保健師	入院中の様子や病状の共有、今後の方向性につ いて確認
H26.10.17 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 デイサービスセンター職員、介 護用品業者、家族、保健所保 健師	今後のサポート体制の統一
H27.1.26 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問入浴事業 所、保健所保健師	術後の在宅療養状況の確認、必要なケアの検討・ 導入
H27.2.9 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 医師・看護師、福祉用具業者、 人工呼吸器業者、訪問入浴事 業所、CTF松阪、家族、保健所 保健師	意思伝達装置サポート事業について紹介、今後の 使用について検討

H27.3.30 ALS (自宅)	ケアマネジャー、本人・家族、保健所保健師	利用サービスについて検討、意思伝達装置サポート事業について
-------------------------	----------------------	-------------------------------

## (2) 個別ケアの充実

### ア 電話相談・面接相談

申請時手続きの来所者などを対象に面接を実施し、患者家族からの在宅療養上の相談に対応した。必要な人に対して電話相談、面接相談、訪問などを実施するとともに、関係機関につなげた。また特定医療費申請手続き等に関する相談に対応した。

### イ 家庭訪問

ALS 患者の全数把握や家族、その他関係機関から依頼のあったケースを中心に家庭訪問を実施し、関係機関と連携して課題の改善のための支援を行った。

#### 疾患別家庭訪問実施状況

疾患名	訪問件数
筋萎縮性側索硬化症(ALS)	実8件／延20件
合計	実8件／延20件

## (3) 訪問療養相談

療養上の相談を受けることが困難な在宅療養患者及び家族に対し、療養生活が適切に行われるよう、管理栄養士による専門的な栄養相談を実施した。

#### 訪問療養相談実施状況

開催月日	平成27年3月11日(水)
対象者	ALSの患者と家族
スタッフ	管理栄養士・保健師

## (4) 事例検討・研修会等

管内の関係機関・支援者が個別ケアについて情報共有を行うため、また患者を取り巻く関係者のネットワーク化をはかるために事例検討(支援会議)及び研修会を実施した。

### ア 事例検討(支援会議)

開催年月日 病名・場所	参加者	検討内容
H26.9.16 ALS (病院)	ケアマネジャー、医師、相談員、本人・家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後の方向性の意思統一

H26.10.2 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、医師、看護師長、受け持ち看護師、家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後のサポート体制の統一
H27.1.7 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、相談員、看護師長、受け持ち看護師、理学療法士、家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後の方向性の意思統一
H27.1.7 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、保健所保健師	病状悪化に伴う情報交換、今後の方向性の意思統一
H27.1.28 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、看護師長、受け持ち看護師、連携室看護師、家族、保健所保健師	退院に向けてサポート体制の統一

#### イ 研修会

月 日 場 所	内 容	参 加 者
H26.9.9 県伊賀庁舎 大会議室	講演 テーマ: 神経難病患者のより良い在宅生活を支援するために (1) 講義①「神経難病の基礎知識」 講師 三重大学医学部附属病院 神経内科医師 佐々木良元氏 (2) 講義②「神経難病患者の在宅療養支援」 講師 岡波総合病院 言語聴覚士 鈴木真由氏	61人 伊賀管内のケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、介護施設職員など在宅支援関係者

#### (5) その他

ALS の患者家族から、同じ疾患の患者や家族から話を聞きたいとの要望があり、患者会や難病相談支援センターの紹介を行った。

#### 4 臓器移植啓発事業

臓器提供に関する正しい知識の普及啓発を行い、臓器提供意思表示カードの推進を図っている。

##### (1) 臓器提供意思表示カード配布窓口業務

伊賀保健所の窓口において、「いのちの贈りものあなたの意思で救える命」パンフレットと臓器提供意思表示カードの掲示・配布を行った。

#### 5 ハンセン病啓発事業

ハンセン病について正しい知識と理解を持ち、偏見や差別のない、人権が尊重される社会を実現するための啓発を目的として、ホームページにおいて「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」を掲載した。

#### 6 骨髄バンク

白血病や再生不良性貧血など血液難病の患者にとって、生への希望である骨髄バンクが円滑に実施されるよう、骨髄移植に関する正しい知識の普及啓発を行い、骨髄提供希望者登録(ドナー登録)の推進を図った。

##### (1) 骨髄提供登録受付窓口業務

毎月第2木曜日に登録受付を実施し、1名の登録があった。

##### (2) 臨時ドナー登録受付の実施

管内6ヶ所の献血会場にて受付を実施した結果、48名の登録があった。